国　語　科　学　習　指　導　案

授業日：平成２４年１１月１９日（月）
指導学級：１年６組　３５名
指導者：教諭　八木　幸恵

１．単元名　　いにしえの心にふれる　古典の文章に出会い現代とのつながりを考える
（題材名）　　（今に生きる言葉　[矛盾]）

２．本題材の学習目標（ねらい）

・「矛盾」の書き下し文を繰り返し音読し，漢文特有のリズムに慣れ，漢文と日本語の違いについて考えることができる。　【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
・「矛盾」の書き下し文を現代語訳を参考にしながら読み，故事の内容を理解することができる。【読む】
・故事成語はどのような言葉かを理解し，どんな由来があるのかを調べようとしている。【関・意・態】
・故事成語の価値や漢文の文体について，自分の考えを持つことができる。【読む】

３．指導にあたって

（１）研究テーマとの関連

本校研究テーマは，「『確かな学力』の向上を目指した指導法の工夫～教科の特性を生かした授業づくりを通して～」である。国語科では，このテーマを受けて，「基礎・基本を身につけ，状況に応じて表現する力を育成する指導法の工夫」を研究テーマとしている。基礎・基本を身につけさせるために，普段の授業の中では，言葉の意味や使い方を正しく理解させるための繰り返し学習を行っている。さらに，ペアやグループでの話し合い活動，文章を読んで考えたことや感じたことなどの意見発表，作文学習など，場面に応じた表現力を育成する活動を行ってきた。

今回は，古典の文章を繰り返し読むことで，漢文のリズムに慣れ，漢文の特徴と日本語の違いについて気づかせ，自分の言葉でまとめさせたいと考えている。

（２）題材観

我々の生活が欧米化し，生活用語にみられる欧米からの外来語は非常に多くあり，今後も増加していくと考えられる。しかし，日常使っている言葉を振り返ってみると，中国古典に由来するものが多数みられる。中国の故事成語は，日本の古典に取り入れられ，それが今日まで使われている言葉である。本学習材の「矛盾」は故事成語の中でも，日常生活の中でよく使われ，生徒も知っている言葉のひとつだと思われる。したがって，その言葉の由来について学習することで，さらに理解を深め自分たちにとって身近な言葉だという意識を持たせたい。さらに，他の故事成語についても調べ，古典に対する興味関心を深めさせたい。

（３）生徒観

指導学級は，全体的には意欲的に授業に取り組み，発言も多く，活発に活動する雰囲気である。しかし，興味のあることに関しては集中力が続くが，自分でじっくりと考えて答えを出したり，意見をまとめて発表したりという活動が苦手な生徒もいる。

古典の学習に関しては，小学校５年生で「竹取物語」や「徒然草」などを音読し，小学校６年生で「論語」などの漢文にも触れてきているようである。しかし，多くの生徒はあまり明確に覚えていない。そこで，「いろは歌」「七夕に思う」「蓬莱の玉の枝『竹取物語』から」で，改めて日本の古典特有の文章のリズムを味わわせ，日本の伝統文化に触れながら，現代とのつながりについて考えを持たせてきた。

本題材では，漢文のリズムに慣れさせるとともに，独特なリズムに気づき，日本語と漢文の違いについて自分の考えを発表できるようにしたい。

（4）指導観

漢文が日本の古典の中で，重要な役割を果たしていることを，「矛盾」や故事成語の学習を通して理解させたい。昔の日本人が，中国から学んできた文を読むために行った工夫を，映像を使って示すことで，古典の学習に抵抗を感じている生徒も，関心を持って学習に取り組むことができると考えている。その際，提示の仕方やワークシートを工夫して，訓読のルールについても触れたい。

さらに，書き下し文を繰り返し音読することで，漢文のリズムに慣れさせるとともに，日本語と漢文の違いについて捉えさせたい。そのために，ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることで，自分一人では気づかなかったことにも気づき，考えを深めることができると考えている。

4．題材の評価基準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①矛盾の書き下し文に興味を持って音読しようとしている。 ②故事成語が中国の歴史的な事実やエピソードを背景にした言葉であることを理解し，由来や意味を調べようとしている。	①現代語訳を参考にしながら，語句の意味と文章の内容を理解している。 ②故事成語の価値や漢文の簡潔さなどに気づいた学習のまとめができている。	①漢文特有の簡潔なリズムで，正確に音読している。

5．指導と評価の計画（全３時間扱い　本時　１／３）

時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価基準（評価方法）
1 (本時)	・漢文を読むための，日本人の工夫を知り，書き下し文について理解する。 ・書き下し文の音読を繰り返し行い，漢文特有のリズムに慣れ，日本語との違いについて考える。	・漢文を読むための，日本人の工夫を知らせ，書き下し文について理解させる。 ・書き下し文の音読を繰り返し行わせ，漢文特有のリズムに慣れ，日本語との違いについて考えさせる。	・矛盾の書き下し文に興味を持って音読しようとしている。 ・漢文特有の簡潔なリズムで，正確に音読し，日本語との違いについて考えている。 （机間指導・観察・ワークシート）
2	・「矛盾」の意味と由来を理解し，他の故事成語についても関心を持って調べる。	・「矛盾」の意味と由来を理解させ，他の故事成語についても関心を持って調べさせる。	・現代語訳を参考にしながら，語句の意味と文章の内容を理解している。 （机間指導・観察・ワークシート）
3	・故事成語とは何かを理解し，中国の古典が今も生活の中に生き続けていることを知る。	・故事成語とは何かを理解させ，中国の古典が今も生活の中に生き続けていることを知らせる。	・故事成語が中国の歴史的な事実やエピソードを背景にした言葉であることを理解し，由来や意味を調べようとしている。 ・故事成語の価値や漢文の簡潔さなどに気づいた学習のまとめができている。 （机間指導・観察・ワークシート）

6．ＩＣＴ活用の目的・期待されるＩＴＣ活用の学習効果

・ＮＨＫ10 ミニッツボックスを利用することで，古典や漢文の学習に抵抗を感じている生徒にも，興味関心を持たせる。

・実物投影機を活用し，書き下し文を見やすく提示することで，理解を深める。

7．　ＩＴＣ機器

・パソコン（ＮＨＫ10 ミニッツボックス），実物投影機（書画カメラ），大型テレビ

８．本時の指導

（１）ねらい　・「矛盾」の書き下し文を繰り返し音読させ，漢文特有のリズムに慣れさせ，漢文と日本語の違いについて考えさせる。

（２）指導過程

段階	主な学習活動	主な発問と指示	＊指導上の留意点 評価基準（評価方法）
導入	１．提示された白文を，どのように読むか考え，発表する。 ２．提示された訓読文を，どのように読むか考え，発表する。	１．黒板に白文を提示する。（カード） 「この文は，どこの国で書かれたものか。」 「この文はどう読むか。」 ２．黒板に訓読文を提示する。（カード） 「記号の入ったこの文はどう読むか。」	＊ワークシート配布 ＊机間指導
展開	３．訓読のしかたや書き下し文の成り立ちを理解する。 書き下し文を繰り返し音読し，漢文のリズムに慣れよう。 ４．書き下し文を音読する。 （範読→後追い読み→個人→ペア→全体） 漢文と日本語の違いについて考えよう。 ５．漢文と日本語の違いについて気づいたことを話し合う。 ６．漢文と日本語の違いについて気づいたことを発表する。	３．白文を日本語として読むために，訓読文や書き下し文がつくられたことを確認させる。 「『記号や送り仮名をつける』『漢字と仮名交じりの文にする』などさまざまな工夫をしてきたことがわかったか。」 ４．教科書の書き下し文を読ませる。 範読「読めない言葉や読みにくい言葉を，チェックする。」 後追い読み「正しい読みができるように，後に続いて読む。」 個人の音読「自分でしっかり読めるか確認しながら読む。」 ペアでの音読「お互いに正しく読んでいるか確認しながら読む。」 斉読「全員で読む。」 ５．漢文と日本語の違いについて気づいたことを４人グループで話し合わせる。 「日本語と漢文の違いについて話し合う。」 ６．漢文と日本語の違いについて気づいたことを発表させる。 「話し合ったことを発表する。」	＊ＮＨＫ10 ミニッツボックスを見せる。 ＊ワークシート配布 ＊机間指導 ・矛盾の書き下し文に興味を持って音読しようとしている。（観察） ・漢文特有の簡潔なリズムで，正確に音読している。（観察） ＊実物投影機を使い，書き下し文を部分的に見せたり隠したりしながら暗唱につながるようにする。 ・漢文と日本語との違いについて考えている。 （観察・ワークシート） ＊机間指導
終結	７．書き下し文を視写する。	７．書き下し文をワークシートに視写させ，本時のまとめとさせる。	

９．本時の評価規準

評価規準	Ａと判断する具体的な姿	Ｃの生徒に対する手立て
・矛盾の書き下し文に興味を持って音読しようとしている。	書き下し文を，ペアで協力したり全体で声を合わせたりして進んで音読している。	読みにくい言葉などをチェックさせ，繰り返し音読させる。
・漢文特有の簡潔なリズムで，正確に音読し，日本語との違いについて考えている。	書き下し文を，すらすらと音読し，漢文と日本語の違いに気付き，その違いを発表することができる。	文を短く区切って繰り返し練習させる。 話し合いの中で他の人の考えを聞かせる。